

この本、
いかがですか？

助産師のための 性教育実践ガイド

評者・光本朱實 高知県思春期相談センター PRINK

やっと出ました。

助産師が性教育を実践しようとするとき、ぜひ読んで欲しい1冊です。

昭和60年頃から、私は学生と一緒に臨床実習場で十代の望まない妊娠や人工妊娠中絶に出会い、何かできることはないかと考えていました。そして平成2年から思春期の若者たちからの相談を受け、学校や地域で性教育を行ってきました。この頃、性教育を実施するための知識の多くは、医学書関係であり母性や助産領域の“保健”分野でした。これらの本を参考に知識を教えることに重点が置かれていたように思います。でも、

医療・保健領域の知識だけでは行動の変容は起こらないのです。行動の変容がない限り教育の効果は上がらないのです。

今、この本を手にしてまず感じたことは、助産師が性教育をするための本であり、助産師だからこそできる性教育の姿がここにあるということです。助産師はもともと人間の健康を、性に関する視点からその保持と増進のために、生殖にかかわっています。だからこそ、助産師に性教育が求められているのではないのでしょうか。また、助産師の多くは性教育にかかわる必要性を感じており、私の周りの助産師もいろいろな形で活動しています。

助産師が性教育をしようとするとき、とすれば妊娠や出産、避妊、性感染症などの知識を与えればよいと考えるかもしれませんが、性教育はそ

性教育実践のときの 助産師のバイブルです



川島広江・大石時子 編集

定価 3,570 円(本体 3,400 円+税)

B5判/医学書院/2005年

れほど単純ではなく、学校によって、学年によって、あるいは学習の進度によって受け手側の児童・生徒は千差万別です。受け手側の児童生徒の望むものと、提供する側の助産師が示すことができるもの、それに保護者や学校がほしいものが一致して、初めて効果的な性教育ができるのです。これが一致するまで数回の打ち合わせが必要になるでしょう。

性教育を実施するとき、性に関する知識だけでなく、事前に知っておくべき心理的な面や相手側との打ち合わせ、そして保護者や学校の教職員との打ち合わせ、時には保護者、教職員自

身への性教育が必要になるかもしれないのです。だから性教育をしようとするとき、当然助産師は自分自身が「性教育とは何か」についても理解しておく必要があります。私が性教育を始めたころは、これらを1つひとつ本を開き勉強したものでした。

本書には、助産師が性教育を実施しようとするとき、実際どのように学校側と打ち合わせをし、どのような教材を準備し、どのように進めていけばよいのか内容や留意点が挙げられています。その他、性教育を実践するときに当然持っていてほしい、性教育に関する情報が網羅されています。

助産師の特性を生かし、豊かなセクシュアリティに向けて助産師らしい性教育ができるためにもこの本を手にし活動を広げていってほしいと思います。